

# KS 女子大学生の「教員の資質能力」についての意識調査

The consciousness survey about the "qualities and ability of the teacher" of the KS female university students

齋藤正俊\*

Masatoshi SAITO

## 要 旨

教員を目指す学生が教職論の講義を受講し、教員の資質能力をどのようにとらえ、また受講の経過によってとらえ方がどのように変化するかをアンケート・自由記述によって調査した。

講義最初の9月28日の時間における資質については、個人力、愛情、伝える力、公平の4項目に、能力と思われる項目では、生徒理解、コミュニケーション能力、指導力、生徒育成、知識、リーダーシップの6項目に収斂した。

11月16日の2回目の調査では、資質においては個人力、教職への想い、愛情、公平の4項目に、能力では生徒理解、指導力、知識、コミュニケーション脳力、授業力の5項目に収斂した。

2回目の調査では記述数について微増傾向がみられ、講義の経過により学生たちの意識に変化が生じていることが確認された。

現代は知識基盤社会と言われており、能力においては情報処理能力等が記述されると予想したのであるが、そのようなこともなく今まで言われているような不易的な記述内容であった。

キーワード：教職論、学生の意識、教員の資質能力

## I. はじめに

KS 女子大学で教職論を履修する学生は、どのような気持ちで受講しているのだろうか。

本来、第一義としては教職を目指して受講しているものと考えられるのだが、現状はそうではなく免許状が欲しいだけの学生もいる。

教員の仕事は、日本の将来を担う若者を育てる職業であるが、学生はその理解がなかなか進んでいない。文化学科の学生は意識を持って教職を目指してきているが、スポーツ教育学科の学生は、教員養成課程の中にありながら、学生の受講態度

からは教員志望という意識はあまり感じられない。

入学前の意識は教職であっても新聞報道等から厳しい職業であると知り迷っているのだろうか、2年次の教職論では真剣さに欠ける学生も見受けられる。

現在の日本の教員の現状は（朝日新聞2014. 6. 26）、世界の各国との比較によれば、日本の公私立中学校192校、教員3,484人と校長からの解答によると1週間の勤務時間は1週間の平均53.9時間世界34カ国・地域で最長である。（2013年に実施

\* 本学発達教育学部ジュニアスポーツ教育学科

した国際教員指導環境調査《TALTIS》による)という世界1多忙な結果がでている。そして、世界1多忙だが、自分の指導に胸を張れず、評価を低いと感じている日本の教員の意識実態もある。その背景には「教員に対する社会的な要求の高さ」があるとOECDの教育局長が指摘している。要求の高さに、多忙な中での充足感や達成感が得られていないのであろう。

また、参加国の調査の一項目、「教職は社会的に高く評価されていると思う」と答えた割合は日本は、参加国平均30.9%を下まわる28.1%だったという結果がでている。このような状況にあっても、学生の中にはやはり、真剣に教職を目指している者がいるのは確実である。昔からいわれている安定志向かもしれないが、しかし現状は知識基盤社会といわれているように電子機器等の発達によって知識・情報の伝達は日進月歩で早くなっており、児童・生徒の方が情報を早く取得できる時代になっているため、少ない知識では子ども達に教育することは難しく、生半可な気持ちで教員にはなれない。教員になるためには、様々な障壁を乗り越えていかなければならないが、教職を目指す意識としては子ども達を育てる強い意志と自覚が必要である。

そのため教職論は教職課程に位置づけられ、教職を目指す者が受講するはずである。教職論は教師教育<sup>8)</sup>の基礎的分野であり、教員への第一歩である。その自覚が学生達にはあるだろうか。

教員を目指して教職論を履修する学生の意識については最初にも述べたが、履修理由には2つの考え方に分けることができる。第1には教員を目指す、である。第2には教員免許取得のため、である。どちらにしても、最終的には教員免許状は教職に関する科目を全履修し単位を取得しなければ手に入らない。

教職論は、教職の意義等に関する科目であり、教職に関する基本的な教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、進路選択に資する各種の機会の提供等が履修内容となる。基本的な教師教育である。

この調査では、学生は教員の資質能力をどのように捉えているのかを把握すること、そしてその結果を基に今後の講義方法を考える基礎資料を得ることを目的とする。

## II. 方法

1. 調査票：「現時点で教員の資質能力についてどう考えているか。今までの中・高の経験、授業を通じて思ったことを書いて下さい」の教員の資質能力を問う自由記述法によるアンケート用紙を作成する。
2. 記述語彙の分類方法：自由記述のため個人別記述内容は多様であるが、全く同一の表現や類似した表現もあり、同義語の分類が可能である。分類手続きは帰納的思考に基づいて「コーチングの実態に関する調査報告書」<sup>5)</sup>の要領と、「教職入門教師への道」(2014吉田・大森)を参考にしている。
3. データ処理：各調査において全体の記述数を求め、その後資質能力の各項目ごとの記述数を求める。それにより項目内の記述率を求める。そして全体の総記述数から全体の中で項目ごとの記述率も求める。また、総記述数より1人あたりの記述数を求める。各項目間の記述率の差についてはCR<sup>3) 6)</sup>を求め確認する。
4. 調査の実施：KS女子大学の教職論の講義において1回目に、さらに8回目の講義時に自由記述による調査を実施する。
5. 調査対象：KS女子大学2年次生・「教職論」受講者であり、文化学科の学生11名、スポーツ教育学科の学生38名の合計49名である。

## III. 結果と考察

### 1. 教員の「資質能力」についての語彙分類表

教職論の講義において2015年9月28日の1回目の時間と11月16日の8回目の講義時において自由記述による「教員の資質能力についてどう考えているか～」の質問に学生が2度に渡り調査用紙に記述したものを一覧表にしたものが表1である。記述内容部分で空白のところがあるが、学生が欠

表1 平成27年度 教職論受講者 49名による教員の資質能力アンケート結果

| no | 9月28日   | 11月16日  |
|----|---|---|
| 1  | 生徒達の知識、学力、人格を育てる、気配り  |   |
| 2  | 人(子ども)が好き、他人に何かを与えたい教えたい人、人の成長にたずさわりたいと思う人、根性がある人、寛大さと柔しさがある人、目標を持って何かに取り組める人、教科に対する知識技術がある、人とのコミュニケーション能力がある | 子どもの精神的、学力的成長、向上に携わってサポートすることができる   |
| 3  |   | 公平さや人間性を持って生徒に関わっていく  |
| 4  | あきらめない強い意志、話す、聞く能力  | 教員の仕事が好き、広い視野を持ち、人の長所を見付けることができる、生徒が親しみやすい性格、自分の考えをしっかりと持っていること、他人を頼る、意見を聞く                   |
| 5  |   | 教科に対する知識、教職に対する気持ち、生徒が理解出来るような教え方   |
| 6  | 体力と精神力、観察力と理解力  |   |
| 7  | 人に関わることが好き、子どもが好き、リーダーシップ   | 子どもに対する愛情、教科の十分な専門的知識とそれを教える指導力、現状にあった指導方法  |
| 8  | 人が好きであること   | 教師としての情熱、生徒に対する愛情や責任感、専門的な知識  |
| 9  | コミュニケーションがきちんととれる、知識がある、人間味がある、人に話を聞かせる力がある、忍耐力、探究心   |   |
| 10 | 真面目、多様な考え方ができる  |   |
| 11 | 人が好き、どんな授業でも動じず対応できるか   | 良い見本となれるような態度を取ること、向上心を忘れないこと、真剣に真正面からぶつかっていき教師であるという責任感をしっかりと持っていること                         |
| 12 | 生徒に教えるという熱い思い、経験を生かすこと  | どんな生徒でもその生徒の良い所を見付け、生徒理解ができる人、生徒とよくコミュニケーションがとれめりほりをつけさせることができる                               |
| 13 | 公平・平等に面倒を見れること  | 基礎となる学力を土台としてしっかりと身につけておく、自主的に課題を発見し解決に導く力、志、リーダーシップ、創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感、思いやりの心、コミュニケーション能力 |
| 14 | コミュニケーション能力   | 生徒1人1人に親身に相談にのる、授業(わかりやすい?)   |
| 15 |   | 本気で自分(生徒)を思っている人、その人(生徒)に寄りそうことができる   |
| 16 | 相手などのふところに入っていき、生徒の不安定な心をいい方向に正していってあげること   | 一人ひとりをしっかりと観察し、判断力があり、洞察力があること、面白くわかりやすい授業  |
| 17 | コミュニケーション能力、相手の立場に立って物事を考えることができる   | 教員として生きていく上で大切な常識や教養、教職に対する誇り、コミュニケーション能力   |
| 18 | 相手に何かを伝えることができること   | 生徒達が理解できるように授業ができるような知識をもっていること   |
| 19 | 人の気持ちを理解することができること  | コミュニケーションをしっかりと取り、生徒の気持ちを理解することができる   |
| 20 | 情熱をもっている人   | 生徒に対する愛情、生徒のことをよく見ていたり、可能性を広げてくれるような教員、専門的知識能力  |
| 21 | 教えることが好き、人が好きということ  | 人間性、生徒や保護者教員同士でコミュニケーション能力が必要、指導力   |
| 22 | 人に接するのが好きな人、人に物事を教えるのが上手  | 基礎的な知識があり、その知識をわかりやすく教えることができる、礼儀作法、コミュニケーション能力   |
| 23 | 子どもが好きであること、言葉のキャッチボールがきちんとできること  | たくさんの知識が必要、話し広げつないでいけるようにする能力、普段の行動や発言でも常に生徒の見本になれる   |
| 24 | 専門だけできている、すぐれている、人間関係や社会の面においてもバランスがとれている   | 生徒のことが第一、生徒の異変や変化・様子を察する、生徒のことを自分のことのように考える責任感が持てる  |
| 25 | コミュニケーション能力が優れている   | いろんなことを考えている  |
| 26 |   | すらすらと言葉が出る、視野を広く平等に生徒を扱う  |
| 27 | 人が好き、人の違いや変化に気付くことのできる力   | 他人を理解しようとする気持ち、生徒に、平等に接し、公平な判断をできる人   |
| 28 | 人に教えることが好き、人が好きな人   | 思いやり、愛情   |
| 29 | 子どもが好き、待つことができる、しんぼう強い  | 視野が広い、理解しようとする力   |
| 30 | 生まれつき性質や才能、可能性などを生徒に伝えていく、教えていくこと   | 人(生徒)見本と成り教えなければならぬ、1つ1つ責任を持たなければならぬ、生徒1人1人をしっかりと見つめられる人、物事を「できる」と生徒に思わせてあげられるような人            |
| 31 | コミュニケーション能力   | 生徒の立場に立って教員が生徒のことを考えること、生徒の変化に気づき、教員に誇りを持ち愛情をそそぎ生徒から信頼される教員                                   |
| 32 | 情熱のあるひと   | 専門知識実践的な指導、どもの手本にならなければならない   |
| 33 | 学んできたものを自分のものとし、発揮できるようになること  | 指導(の仕方)   |
| 34 | 生徒1人1人に対して正面から向き合う力、可能性をあきらめず挑戦する力  | 体験を主にした授業   |
| 35 | 教えることが好き  | 愛情や理解(生徒)、実践的指導力  |
| 36 | 相手を気づかい思いやれる力、心、人間関係を築くこと   | 基礎的基本的な知識、生徒に興味を持ってもらえるような話し方、表現力を身に付け学ぶことの楽しさをつたえることができる能力                                   |
| 37 | 生徒をまとめる力がある人、生徒1人ひとり理解すること、コミュニケーション能力が盛んな人、気持ちを理解できる人  | 生徒とコミュニケーションをよく取り、生徒一人ひとりの事を理解できる人間性  |
| 38 | 独創性   | 生徒を理解し豊かな授業づくり、指導   |
| 39 | 教員になる可能性  | 視野を広く持ち常に生徒に目を向ける、生徒のことを平等に接すること  |
| 40 | 子ども一人一人の特徴をみぬける、子ども達を楽しめるようなことを考えることができる  | 生徒たちとの信頼関係、生徒の一人一人の性格を見抜ける力、いつでも明るくふるまえる  |
| 41 | 生徒の気持ちをくみとりつつ授業や生徒指導を行うことができる能力   | 教えることに情熱を持ち、生徒を想って指導できる   |
| 42 | 人と接する事が好き、子ども成長にたずさわりたいと思う人   | どんな生徒に対してもまっすぐに向き合える強さ  |
| 43 | 人に何かを教え伝えたいと思う人、1人1人の子どもの成長を援助すること  | 生徒のことを考え、その1人1人にとって最良の対応をする、学校生活をよりよく過ごすために手をさしのべる、1人1人抱えている悩み問題が違うことを理解                      |
| 44 | リーダー性があり、自己の考えを貫くことができる人  | 生徒の変化に素早く気づくように心掛ける、生徒とのコミュニケーション   |
| 45 | 自分で学習していくこと   | 生徒のことをよく考えてくれて言葉で伝えてくれる人  |
| 46 | 子どものことが好きで思える人、努力ができて前向きな人、一生懸命がんばれる人、しんどい時こそ笑顔でいれる人、あたたかく見守り待つことができ時に厳しく間違っている事を正せる人                         | 授業や教員の学力、生徒1人1人と向きあい、全力で教え、生徒を第一の考えることができる  |
| 47 | どんな子ども丁寧に関わり差別をしないという事  | 生徒にわかりやすく教える  |
| 48 | 他者の気持ち考えを読み取り理解する力、実際に行動(指導)し正しい方向、その子が進むべき道に導くことができる力  | 教える事への情熱と子ども(生徒)への愛情、専門教科の実践指導力、豊かな人間性、「生きる力」を身につけさせる教育ができる能力                                 |
| 49 | 生徒たちをまとめて責任感のあること   | しっかりと基礎を教え、皆が分かるようにしてくれ、生徒想いで一生懸命   |

席または、未記入によるためである。この一覧表をもとに語彙収集を行い収斂した項目毎に命名したものが巻末資料1、2である。また、教職論のシラバスも資料3として巻末に載せている。

## 2. 2015年9月28日の調査における回答結果

講義第1回目の学生の調査結果を語彙収集し収斂した群毎に命名し、資質と能力に分けた一覧表が表2である。命名の並びは記述数の多い順である。

総記述数113。未回答4。実質回答者は45名であり、実質1人あたりの記述数は2.51であった。回答率は91.8%である。

語彙を「教職入門教師への道」(2014吉田・大森)を参考に資質と能力に分け記述数を確認した。結果、資質(59)、能力(54)であったが、記述数では特に差( $CR = 0.38 < 1.96$ )は見られなかった。

### 1) 2015年9月28日の調査における回答・資質項目の特徴(表2)

ある程度のまとまりとして命名できたのは個人力、愛情、伝える力、公平である。

①個人力：記述数36、資質内記述率61.0%、全体記述率31.9%であった。資質内記述数の半数以上が集中した。特に教員に関係する項目に限らない内容である。人間性と言い換えても良いかもしれない。探究心、精神力、体力、真面目、責任感、忍耐力といった言葉が占めている。よって、個人力と命名した。これらはけして教職に特化したものではない。社会人としての生きていく上での基本的事項と考えることもできる。

②愛情：記述数15、資質内記述率25.4%、全体記述率13.3%であった。内容は人が好き、子どもが好きに代表されるように人と接する事が好きな性格を教員の資質と考えていた。当然の結果と考えることができる。小・中・高と校種は違って朝8:30頃から午後3:00過ぎまでは目の前に児童生徒がいるのである。人と接する事が嫌いでは教員には向いていない。

③伝える力：記述数5、資質内記述率8.5%、全体記述率4.4%である。教員は何か使命的なものを気持ちの中に持ちそれを伝えたい思いがある

と学生達は考えていた。少ない記述数、漠然としたとらえ方ではあるが教員の気持ちを表しているような項目である。

④公平：記述数3、資質内記述率5.1%、全体記述率2.7%であった。「公平・平等に面倒が見れること」と資料1にあるように人権意識である。全体的にみても低い記述率であるが、子どもたちのためには隠れたカリキュラムとして必要な資質である。

以上のように、最初の講義時間のため教員の資質というより、生徒として過ごした時間における印象的な内容である。しかし、資質の特徴としては、教師である前に人間として必要な個人的な資質を重要視している傾向と子どもたちに愛情をもって分けへだてなく何かを伝えていくのが教員であると考えていた。

### 2) 2015年9月28日調査における回答・能力項目の特徴

表2と巻末資料1にあるように能力の項目で命名できたのは生徒理解、コミュニケーション能力、指導力、生徒育成、知識、リーダーシップの6項目であった。

①生徒理解：記述数14、能力内記述率25.9%、全体記述率12.4%である。生徒指導においてよくいわれる生徒理解である。生徒指導の印象は懲戒を思い浮かべるが、記述内容を見ると受講者達は良き学校生活を送ってきていることがうかがえる。良き教員と巡り会っていると感じさせる記述数であった。生徒達をよく見てくれた教員が多かったのであろう。先生は私たちのことをよくみていてくれる、という印象がそのままであるように思える内容であった。

②コミュニケーション能力：記述数14、能力内記述率25.9%、全体記述率12.4%で生徒理解と同数であった。教員は、生徒を第一に考え生徒と向かい合い思考するものである。その際にコミュニケーション能力が必要である。資質の「人が好き」から延長線上にコミュニケーション能力がある。そして、生徒理解につながっている。自然な形で学生の気持ちが現れているように思える。



表2 語彙分類一覧：項目別記述数（率）

2015.9.28

| 1) 資質  | 記述数   | 項目内(%)  | 全体《%》  | 2) 能力        | 記述数   | 項目内(%)  | 全体《%》  |
|--------|-------|---------|--------|--------------|-------|---------|--------|
| ①個人力   | 36    | (61.0)  | 《31.9》 | ①生徒理解        | 14    | (25.9)  | 《12.4》 |
| ②愛情    | 15    | (25.4)  | 《13.3》 | ②コミュニケーション能力 | 14    | (25.9)  | 《12.4》 |
| ③伝える力  | 5     | (8.5)   | 《4.4》  | ③指導力         | 9     | (16.7)  | 《8.0》  |
| ④公平    | 3     | (5.1)   | 《2.7》  | ④生徒育成        | 9     | (16.7)  | 《8.0》  |
| —      | —     | —       | —      | ⑤知識          | 4     | (7.4)   | 《3.5》  |
| —      | —     | —       | —      | ⑥リーダーシップ     | 4     | (7.4)   | 《3.5》  |
| 記述数合計A | 59    | (100.0) | 《52.2》 | 記述数合計B       | 54    | (100.0) | 《47.8》 |
| 総記述数   | A + B |         | 113    | 総記述数         | A + B |         | 113    |

一人あたりの平均記述数 2.51  
 CR (59 : 54) = 0.38 < 1.96, —

③指導力：記述数9、能力内記述率16.7%、全体記述率8.0%であった。教員は教科指導が一番にくるはずである。特に中・高は教科担任制であるので授業は教科指導である。しかし、今回の文言の中に教科指導と記述したものはなく、「教える」という言葉が多く使われているため指導力と命名した。

④生徒育成：記述数9、能力内記述率16.7%、全体記述率8.0%で指導力と同数であった。教員の仕事は学力保証（教科指導）、倫理観の獲得（社会的教養保証）をもって国の将来を担う若者の育成である。そのようなことを学生達は漠然と感じているということであろう。「学力を育てる」「知識を育てる」「人格を育てる」とあり生徒育成と命名した。

⑤知識：記述数4、能力内記述率7.4%、全体記述率3.5%であった。能力内にしても記述率は低い。教員として教科の知識が必要という意識である。しかし、記述率の低さから考えると知識は当然必要と考えており特筆するものではないと思ったのであろう。

⑥リーダーシップ：記述数4、能力内記述率7.4%、全体記述率3.5%で項目・知識と同数であった。生徒達をまとめる力を示しているが、担任としての力を考えているのかもしれない。しかし、知識と同様に記述率は低くリーダーシップよりは

最近よく言われる「友達」的な教員を求めている結果かも知れない。

### 3. 2015年11月16日の調査における回答結果

講義第8回目の学生の調査結果を語彙収集し、1回目の調査結果同様に群毎に命名して、資質と能力に分けた一覧表が表3である。命名の並びは記述数の多い順である。

表1をもとに語彙収集を行い群毎に命名したものが巻末資料2である。第1回目の調査同様、表1の記述内容部分で空白のところがあるが、1回目と同様に学生が欠席または、未記入によるためである。

総記述数142である。未回答が4あり、実質回答者は45名であった。実質1人あたりの記述数は3.16であった。語彙を資質と能力に分けているが資質（64）、能力（78）についての記述数で差が現れたが、CRに於ける差（CR = 1.09 < 1.96）は認められなかった。回答率は91.8%であった。

#### 1) 2015年11月16日の調査における回答・資質項目の特徴

表3にあるように項目・資質について命名することができたのは、個人力、教職への想い、愛情、公平であった。このときの調査では伝える力が消えて教職への想いが現れた。

①個人力：記述数24、資質内記述率37.5%、全体記述率16.9%であった。9月28日と同様に資質

表3 語彙分類一覧：項目別記述数（率）

2015.11.16

| 1) 資質   | 記述数   | 項目内(%)  | 全体《%》  | 2) 能力        | 記述数   | 項目内(%)  | 全体《%》  |
|---------|-------|---------|--------|--------------|-------|---------|--------|
| ①個人力    | 24    | (37.5)  | 《16.9》 | ①生徒理解        | 24    | (30.8)  | 《16.9》 |
| ②教職への想い | 19    | (29.7)  | 《13.4》 | ②指導力         | 22    | (28.2)  | 《15.5》 |
| ③愛情     | 16    | (25.0)  | 《11.3》 | ③知識          | 12    | (15.4)  | 《8.5》  |
| ④公平     | 5     | (7.5)   | 《3.5》  | ④コミュニケーション能力 | 12    | (15.4)  | 《8.5》  |
| —       | —     | —       | —      | ⑤授業力         | 8     | (10.3)  | 《5.6》  |
| 記述数合計A  | 64    | (100.0) | 《45.1》 | 記述数合計B       | 78    | (100.0) | 《54.9》 |
| 総記述数    | A + B |         | 142    | 総記述数         | A + B |         | 142    |

1人あたりの平均記述数 3.16

CR (64 : 78) = 1.09 &lt; 1.96, -

部分では最高の記述数であった。

しかし、1回目の講義時より資質項目全体の記述数が増えたにもかかわらず、この項目における記述数は減少した。講義を受けていて意識変化があったと推測できる。個人的な視点のみならず意識に柔軟性ができ、多様なとらえ方をしだした影響であろう。

②教職への想い：記述数19、資質内記述率29.7%、全体記述率13.4%であった。教職に対する誇り、教師としての情熱等の記述がみられたが、教職はこうあるべき的な内容を示している。2回目の結果として新たに出現した意識である。個人力から分化したと考えられるが、言葉が具体的になっている傾向が見られる。7時間の講義を経て教職を職業として考え始めると必然的に教員は仕事として生徒に対しての責任や模範的な行動が必要であると考えた結果が出ていた。

③愛情：記述数16、資質内記述率25.0%、全体記述率11.3%である。第1回目の結果とほとんど差のない記述数であった。記述率においても同様である。子どもが好き、人が好きの感情は教員を目指すものにとってはなくてはならない資質である。

④公平：記述数5、資質内記述率7.5%、全体記述率3.5%である。記述数が少ないため統計的手法を講じていないので1回目と差があるかどうかかわからないが、ほとんど記述数、率に差はない

と考えられる。

少ないながら公平・平等な意識は生徒を前にしたとき非常に大切なことである。「範を示す」大事な意識を示す行為であり、生徒の信頼を勝ち得る大事な要素に変わりはない。

この項目では、新たに「伝える力」が消えて「教職への想い」が出現したのが特徴である。講義を受けての意識変化であることは間違いない。

2) 2015年11月16日の調査における回答・能力項目の特徴

表3と巻末資料2にあるように能力の項目で命名できたのは生徒理解、指導力、知識、コミュニケーション能力、授業力の5項目であった。1回目の調査結果より生徒育成、リーダーシップが姿を消し変わって新たに授業力が現れた。

①生徒理解：記述数24、能力内記述率30.8%、全体記述率16.9%である。記述率に関して若干の増傾向が見られた。1回目同様3割の学生がやはり良き教員に出会っている結果である。先生はよく私たち見ている、話を聞いてくれた、という想いが現れていた。この結果は教員が子ども・生徒のそばにいて話を聞いてあげる等のことがいかに大切であるかを子どもの側から証明している。

②指導力：記述数22、能力内記述率28.2%、全体記述率15.5%。1回目の調査よりかなり記述数において増が見られた。教科を教える、生徒が理解できるような教え方、生徒側にたった指導など

が内包されている意識である。学校である限り授業がある。授業は中・高に関しては教科指導である。しかし、その中で教科指導だけでなく様々な指導が必要になってくる現実がある。3割近くの学生が総合的な意味で指導力を必要と考えていた。

③知識：記述数12、能力内記述率15.4%、全体記述率8.5%。1回目より2倍以上の記述率である。15%ではあるが教科教育の大切さに気がついてきている結果である。

現場の教員は授業の準備・教材研究にどれぐらいの時間を要するのか、最低でも50分の授業にかける教材研究時間は2～3時間といわれる。自分の教えたことが生徒に影響することを考えるとしっかりした知識に基づいた授業を展開しなければならない。授業は知識だけではない、といわれるが基礎的知識や教科専門知識は必要である。

④コミュニケーション能力：記述数12、能力内記述率15.4%、全体記述率8.5%。1回目の調査においても書いている学生がいたが記述数に差ほど変化はない。

しかし、記述率を見るとかなり下がっているのが分かる。学校と保護者とのやりとりをニュースでみたり、聞いたりした結果が下がった原因であろうか。記述率が下がったとしても教員として大切な能力に変わりはなく、生徒だけでなく保護者や地域の人とのコミュニケーションが必要な時代になっている現在では、比率的には少ないが学生たちは必要性を認めていることになる。ニュース等に目を光らせ、自分の将来に思いをはせている学生がいるということである。

⑤授業力：記述数8、能力内記述率10.3%、全体記述率5.6%。1回目の調査では現れていない項目である。授業、面白くわかりやすい授業等授業に関係したことばである。これらのことから授業力が適当と考え命名した。少ない記述数・率ではあるが教員には大切なことである。この項目も講義が進むにつれて教職に対する意識の変化がみられた証明であろう。

以上のように1回目の調査では資質項目群では

漠然とした内容から7時間を経て2回目の調査結果では資質項目群で「伝える力」から「教職への想い」に変化していた。

「伝える力」の内容は漠然とした何かを伝える的なことから伝える力と命名したのであるが、「教職への想い」では教職に対する誇り、教師としての情熱、生徒との信頼関係等具体的表現を使っていることが特徴である。

また、能力項目群ではリーダーシップと思われる言葉は1つしかなく1回目のようにまとめることは出来ず、生徒育成についても同様であった。それによって、授業力となったのは講義を受講して教員は授業が本文であることに気がついた結果が現れていると考えて良い。

生徒理解、指導力についても理解が進み微増ではあるが記述率のアップが見られるのは教員にとって生徒指導は懲戒的な指導ではなく生徒理解であり、指導力は子どもの将来を考えて指導することが、教員として身に付ける能力と考えているのであろう。

#### 4. 9月28日の調査結果と11月16日の調査結果の特徴比較

1回目の調査から2回目の調査で変化したことは1人あたりの記述数が増えていることである。個々に差はあるのは当然であるが、全体的に見ると113から142記述数に増えていることである。しかしCRを求めると $CR = 1.75 < 1.96$ で5%水準でも差が認められない。

次に資質項目を見ると「伝える力」が消えて「教職への想い」が現れている。この現象は漠然とした形で資質を捉えていたが、講義の進度につれて教員とはこうあるべき的な考えに変化していったようである。他の項目には変化はなかった。

能力項目を眺めると2回目の調査では「生徒育成」「リーダーシップ」が消えて「授業力」に変化している。

生徒育成は学力や人格を育てる等の内容であったが指導力と授業力に分かれたようである。

リーダーシップについては1回目では、生徒たちをまとめて等のはっきりと認識できる記述で

あったが、2回目については指導力に吸収されていた。

このように微妙に講義が進むにつれて学生たちの教員の資質能力についてのとらえ方に変化がみられたことが挙げられる。

#### IV. 要 約

この研究は教職論の講義において、学生が最初の講義時と8回目の講義においてどのように教職における資質能力をとらえているかを調査したものである。自由記述を求めた後、帰納的思考による語彙分類をおこなった。教職論受講学生における教員の資質能力のとらえ方は以下の通りである。

1. 9月28日の調査における回答結果：資質項目では個人力、愛情、伝える力、公平に分かれ個人力に資質内記述数（率）の半数以上が集中していた。能力項目では生徒理解、コミュニケーション能力、指導力、生徒育成、知識、リーダーシップ6項目に分かれ収斂した。

2. 11月16日の調査における回答結果：資質項目では個人力、教職への想い、愛情、公平に適度な分散がみられ、能力項目では生徒理解、指導力、知識、コミュニケーション能力、授業力の5項目に変化し収斂した。

3. 9月28日の調査結果と11月16日の調査結果の特徴比較：11月16日の調査結果では、全体的記述数と1人あたりの記述数が微増した。1回目の調査の資質項目で現れた「伝える力」が2回目の調査では消えて、変わって「教職への想い」が現れた。能力項目については1回目の「生徒育成」、「リーダーシップ」が消えて「授業力」が現れていた。

教職論講義での教職における資質能力のとらえ方は今まで教員に求められていた項目と同様のとらえ方をしている学生がほとんどであったが、知識基盤社会といわれる現代においては、これらのことに加え情報処理能力等の新しい能力も必要であり教師教育<sup>7)</sup>の一環としてカリキュラム研究が必要であろう。

#### V. 引用参考文献

- 1) 朝日新聞：朝刊，2014.6.26
- 2) 船越正康：指導に伴う柔道に関する 意識変容の研究，大阪武道学研究，8-1，1998
- 3) 岩原信九郎：教育と心理のための推計学，日本文化科学社，166-171，1999
- 4) 教職問題研究会：教職論 [第2版] 教員を志すすべてのひとへ，ミネルバ書房，2009
- 5) 日体協スポーツ科学委員会：コーチングの実態に関する調査報告，1967
- 6) 齋藤正俊ほか：正課体育における柔道の印象語彙収集，大阪武道学研究12巻1号，17-21，2003
- 7) 齋藤正俊：教育実習時における学生の意識と指導教員の意識について，ジュニアスポーツ教育学科紀要，11-18，2015
- 8) 佐藤 学：専門家としての教師を育てる，岩波書店，155-162，2015
- 9) 吉田辰雄、大森 正編著：改訂新版，教職入門教職への道，改訂新版第2刷，図書文化，101-105，2014



**個人力 36**

探究心  
挑戦する力  
目標を持って何かに取り組める人  
観察力  
精神力  
生まれつきの才能  
生まれつきの性質  
教員になる可能性  
体力と  
自分で学習していくこと  
経験を生かすこと  
自己の考えを貫くことができる人  
独創性  
どんな授業でも動じず対応できるか  
すぐれている  
寛大さがある人  
柔和さがある人  
心  
人間味がある  
真面目  
責任感のあること  
あきらめない強い意志  
努力ができて  
一生懸命がんばれる人  
情熱のあるひと  
情熱をもっている人  
可能性をあきらめず  
根性がある人  
前向きな人  
子ども達を楽しめるようなことを考えることができる  
学んできたものを発揮できるようになること  
忍耐力  
待つことができる  
しんぼう強い  
しんどい時こそ笑顔でいれる人  
多様な考え方ができる

**愛情 15**

人が好き  
人が好き  
人が好きな人  
人（子ども）が好き  
人が好きであること  
人が好きということ  
人に関わることが好き  
人と接する事が好き  
人に接するのが好きな人  
子どもが好き  
子どもが好き  
子どものことが好きで  
子どもが好きであること  
子どものことが思える人  
あたたかく見守り待つことができ

**伝える力 5**

相手に何かを伝えることができること  
人に何かを伝えたいと思う人  
可能性などを生徒に伝えていく  
他人に何かを与えたい  
人に話を聞かせる力がある

**公平 3**

公平・平等に面倒を見れること  
どんな子ども差別をしたりしないという事  
どんな子ども丁寧に接したり

**生徒理解 14**

生徒1人ひとり理解すること  
生徒の気持ちをくみとりつつ授業を行うことができる能力  
生徒の気持ちをくみとりつつ生徒指導を行うことができる能力  
他者の気持ち考えを読み取り  
相手を気づかい  
相手の立場に立って物事を考えることができる  
人の気持ちを理解することができること  
人の違いや変化に気付くことのできる力  
子ども一人一人の特徴をみぬける  
他者の気持ち考えを理解する力  
気配り  
気持ちを理解できる人  
思いやれる力  
理解力

**コミュニケーション能力 14**

人とのコミュニケーション能力がある  
コミュニケーションがきちんととれる  
コミュニケーション能力  
コミュニケーション能力  
コミュニケーション能力が優れている  
コミュニケーション能力  
コミュニケーションが盛んなひと  
人間関係や社会の面においてもバランスがとれている  
人間関係を築くこと  
言葉のキャッチボールがきちんとできること  
相手などのふところに入っていくこと  
話す能力  
聞く能力  
生徒1人1人に対して正面から向き合う力

**指導力 9**

教えることが好き  
教えることが好き  
教えたい人  
教えていくこと  
人に教えることが好き  
人に何かを教えたいと思う人  
人に物事を教えるのが上手  
実際に行動（指導）し  
生徒に教えるという熱い思い

**生徒育成 9**

生徒達の学力を育てる  
生徒達の知識を育てる  
生徒達の人格を育てる  
生徒の不安定なころをいい方向に正していってあげること  
子ども成長にたずさわりたいと思う人  
1人1人の子どもの成長を援助すること  
正しい方向にその子が進むべき道に導くことができる力  
人の成長にたずさわりたいと思う人  
時に厳しく間違っている事を正せる人

**知識 4**

教科に対する知識技術がある  
専門だけできている  
知識がある、  
学んできたものを自分のものとし

**リーダーシップ 4**

リーダーシップ  
リーダー性があり  
生徒たちをまとめて  
生徒をまとめる力がある人

**個人力 24**

忍耐力  
創造性  
判断力があり  
洞察力があること  
表現力を身に付け  
すらすらと言葉が出る  
人間性  
豊かな人間性  
自分の考えをしっかりと持っていること  
いつでも明るくふるまえる  
生徒が親しみやすい性格  
礼儀作法  
いろんなことを考えている  
視野を広く  
視野が広い  
視野を広く持ち  
広い視野を持ち  
意見を聞く  
他人を頼る、  
向上心を忘れないこと  
チャレンジ精神  
一生懸命  
自己肯定感  
自主的に課題を発見し解決に導く力

**教職への想い 19**

教職に対する誇り  
教職に対する気持ち  
教員に誇りを持ち  
教師としての情熱  
教員の仕事が好き  
志  
教える事への情熱  
教えなければならない  
生徒から信頼される教員  
生徒たちとの信頼関係  
教師であるという責任感をしっかりと持っていること  
1つ1つ責任を持たなければならない  
責任感が持てる  
生徒に対する責任感  
生徒を第一と考えることができる  
人(生徒)見本と成り  
良い見本となれるような態度を取ること  
子どもの手本にならなければならない  
普段の行動や発言でも常に生徒の見本になれる

**愛情 16**

愛情  
愛情をそそぎ  
子どもに対する愛情  
生徒に対する愛情  
生徒に対する愛情  
子ども(生徒)への愛情  
思いやり  
思いやりの心  
生徒想いで  
その人(生徒)に寄りそうことができる  
学校生活を良しよく過ごすために手をさしのべる  
子どもの精神的に携わってサポートすることができる  
子どもの学力的成長に携わってサポートすることができる  
子どもの向上に携わってサポートすることができる  
本気で自分(生徒)を思っている人

**公平 5**

公平な判断をできる人  
公平さを持って生徒に関わっていく  
生徒に平等に接し  
生徒のことを平等に接すること  
平等に生徒を扱う

**生徒理解 24**

どんな生徒でもその生徒の良い所を見つけ  
人の長所を見つけられることができる  
一人ひとりをしっかり観察し  
1人1人抱えている悩み問題が違うことを理解  
他人を理解しようとする気持ち  
常に生徒に目を向ける  
理解(生徒)  
理解しようとする力  
生徒を理解し  
生徒のことを考え  
生徒のことが第一  
生徒の変化に気づき  
生徒理解ができる人  
生徒のことをよく見ていたり  
生徒のことをよく考えてくれて  
生徒の異変や変化・様子を察する  
生徒1人1人に親身に相談にのる  
生徒1人1人をしっかり見つめられる人  
生徒の気持ちを理解することができる  
生徒の立場に立って教員が生徒のことを考えること  
生徒の変化に素早く気づくように心掛ける  
生徒一人ひとりの事を理解できる人間性  
生徒のことを自分のことのように考える  
生徒の一人一人の性格を見抜ける力

**指導力 22**

指導  
指導力  
指導(の仕方)  
実践的な指導  
実践的指導力  
それ(専門的知識)を教える指導力、  
専門教科の実践指導力  
しっかりと基礎を教え  
全力で教え、  
教えることに情熱を持ち  
現状にあった指導方法  
生徒が理解出来るような教え方  
知識をわかりやすく教えることができる、  
生徒に興味を持ってもらえるような話し方  
学ぶことの楽しさをつたえることができる能力  
「生きる力」をにつけさせる教育ができる能力  
可能性を広げてくれるような教員  
めりはりをつけさせることができる  
リーダーシップ  
その1人1人にとって最良の対応をする  
どんな生徒に対してもまっすぐに向き合える強さ  
生徒を想って指導できる

**知識 12**

教科に対する知識、  
専門知識  
専門的な知識  
専門的知識能力  
教科の十分な専門的知識と  
基礎的な知識があり  
たくさんの知識が必要、  
基礎的基本的な知識、  
基礎となる学力を土台としてしっかりと身につけておく  
教員として生きていく上で大切な常識や教養、  
生徒達が理解できるような授業ができるような知識をもっていること  
授業や教員の学力

**コミュニケーション能力 12**

コミュニケーション能力  
コミュニケーション能力  
コミュニケーション能力  
コミュニケーション能力  
コミュニケーションをしっかりと取れ  
生徒とのコミュニケーション  
生徒とよくコミュニケーションがとれ  
生徒とコミュニケーションをよく取り  
生徒1人1人と向きあい  
生徒や保護者教員同士でコミュニケーション能力が必要  
人間性を持って生徒に関わっていく  
言葉で伝えてくれる人  
真剣に真正面からぶつかっていく

**授業力 8**

授業(わかりやすい)  
面白くわかりやすい授業  
生徒にわかりやすく教え  
皆が分かるようにしてくれ  
物事を「できる」と生徒に思わせてあげられるような人  
体験を主にした授業  
豊かな授業づくり、  
話を広げつないでいけるようにする能力

### 資料3 教職論 シラバス

#### 1) 教職課程における位置づけ 教職に関する科目 一般的包括的科目×

含めることが必要な事項 教職の意義及び教員の役割 | 教員の職務内容 (研修、服務及び身分保障等を含む。) 進路選択に資する各種の機会の提供等

#### 2) 授業の目的 Course Description

学校現場においては、生徒にしっかりとした教科指導のできる教員が求められている。さらに、学校の組織を考える時、教科指導同様に校務分掌を遂行する力も必要である。このような学校現場を想定しながら、教職の意義、教員の役割、職務内容、教員の資質等について学び、教員になるための基礎知識を身につける。

#### 3) 到達目標 Course Objectives

- ・教職の意義を理解できる。
- ・教員の役割と職務内容を理解できる。
- ・今求められている教員の資質・能力について理解し、目指す教師像を明確にすることができる。

#### 4) 授業方法・各回ごとの計画 Course Themes

- 1 オリエンテーション 講義の概要説明
- 2 教職の意義 人間形成を補助する教師の役割
- 3 教職の意義 生徒、保護者が求める教師とは
- 4 教員の資質と能力について
- 5 教員の仕事と役割 学校組織と校務分掌
- 6 教員の仕事と役割 学習指導
- 7 教員の仕事と役割 生徒指導
- 8 教員の仕事と役割 教育相談
- 9 教員の仕事と役割 進路指導とキャリア教育
- 10 教員の仕事と役割 学級経営、学校経営
- 11 教員の仕事と役割 道徳教育、特別活動
- 12 教員の研修、服務規程と身分保障
- 13 学力について
- 14 免許更新制度について
- 15 まとめと確認

#### 5) 評価方法 (%) Grading and Assessment method

授業へのとりくみ Participation 30 確認テスト Summary 50 レポート Report 20

- 6) 教科書・参考書 Textbooks/Reference books 教科書：教職入門 教師への道 吉田辰雄、大森正編著 図書文化
- 7) 参考書：中学校・高等学校学習指導要領
- 8) 準備学習の内容などアドバイス
  - ①授業を1回休むと3点減点します。
  - ②試験に関しては授業の中で説明します。
  - ③教員は子どもの将来を担う重要な存在です。教職に就くという強い気持ちで受講して下さい。